

# 蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成 23 年 5 月 16 日(月)

第 6 号

発行人 校長 鈴木史良

## 価値ある修学旅行

—— 旅行中様々な場面で見られた成長した姿 ——

深良中の3年生を乗せた新幹線「こだま697号」は朝6時40分に三島駅を出発し、一路京都に向かって静かに走り出しました。学年委員会が考案したスローガン“Let's enjoy our challenging trip ～学ぶために楽しもう 楽しむために学ぼう～”というスローガンのもと、これから始まる古都での様々な体験に胸躍る思いを乗せて列車は京都駅に到着。八条口で待機していたバスに乗り込み、最初の見学地、法隆寺に向かいました。高速道路を乗り継ぎ、斑鳩の里法隆寺へ到着する頃には幸運にも小雨があがりました。バスガイドさんの後について、南大門や五重塔、金堂などの伽藍を巡り、

世界最古の木造建築に感動しました。夢殿では年2回しか公開されないという救世観音像を拝観することができたのはラッキーでした。

続いて薬師寺へ。お坊さんの話によると、1300年前に建立された東塔が6月から解体修理されるため、8年後でなければ見られないとのこと。生徒たちは解体寸前の最後の東塔の姿を見ることができました。ここでもなんという幸運！

バスが奈良公園に到着するころには、雨が降り出しました。南大門下に避難して学級写真を撮ったのですが、南大門付近は修学旅行生の団体で大混雑状態。シカも近寄ってきて半分パニック状態になりながら写真撮影を終えました。大仏殿を見学後、班で奈良公園を散策し、再びバスで京都に戻り、三条のホテルに着きました。

2日目は一日じゅう班別自主研修が行われ、朝、各班がバス+地下鉄の一日乗車券を受け取って元気にホテルを出発していきました。学年主任の加藤力也先生は本部としてホテルに待機し、班ごとに1台ずつ配付した携帯電話で道が分からなくなった班からの電話に対応しました。

中山先生と私はチェックポイントの一つである嵐山に向かう途中、地下鉄内である班に出合いました。私たちは終点駅から京福電鉄嵐山線に乗り換えましたが、生徒たちはバスを選択。京都という不慣れた国際観光都市を、公共交通機関を使って自力移動するのは大人でも容易なことではありません。雨降る中、不安な気持ちでいっぱいだったと思いますが、生徒たちは旺盛な好奇心とチャレンジ精神を發揮し、男女協力



薬師寺でお坊さんの法話を拝聴



実物の大きさに驚いた東大寺大仏

し合ってこの一日を頑張り抜きました。

「今どこにいるの？ うん、わかった。それなら七条通りの駅まで歩いて、電車で帰ってきたほうが早いよ。三条の駅で降りたらホテルは目の前だよ。気をつけて！」

本部の加藤先生から携帯電話で各班に的確な指示が飛びます。最後の班をホテルで迎えた時には、本当に安心しました。

さて、夕食後はバスで青蓮院に向かいました。着いた瞬間から、「私語は慎みなさい。」と厳しく言われ、生徒たちの間に緊張感が走りました。広間に通され、きちんと正座して待っていると、抹茶と蕎麦饅頭が出されました。お坊さんが饅頭の食べ方、抹茶の飲み方を作法に従って一つ一つ丁寧に教えます。子どもたちも緊張した雰囲気の中、



黙々と饅頭を食べ、抹茶をいただきました。さて、  
足がしびれる中、味わって飲食できたかどうか分かりませんが、この後お坊さんの法話に耳を傾け、琴の生演奏を鑑賞するなど、日本の雅な伝統文化を体験し、雨の青蓮院を後にしました。

いよいよ3日目。朝8時15分、小雨の落ちる中、班ごとタクシー一台に乗り込み、次々にホテル前を出発していきました。今日はタクシー運転手さんがガイド役となり、社寺仏閣や事前に予約を取っておいた体験活動場所等へ案内してくれるので安心です。教師たちも各場所に散っていきました。私は北野天満宮である班に出会いました。タクシーの運転手さんに案内され、今お参りを済ませたとの報告を受けました。班員がまとまり、しっかり行動できていたのはさすがでした。それにしてもかなりの降雨の中を、傘をさした多くの修学旅行生たちが30m近くも列をなして拝観待ちをしている光景には驚きました。学問の神様は、中学校3年生には大人気ようです。

午後3時15分には、どの班も京都駅に到着。新幹線に乗って三島に戻り、無事深良に帰り着くことができました。

ホテルは地下鉄三条京阪駅すぐのコトホテル京都で、こじんまりとした清潔なホテルでした。部屋のオートロックに慣れないせいか、キーを中に置いたままロックしてしまった班の多かったこと！ ホテル内での生活は生徒全員が『きまりを守って集団生活する』ことを心がけていました。毎晩行われた班長会ではその日の反省が出され、真剣な話し合いの中にも時折全員の笑い声が上がり、リーダーたちがよくまとまっていて微笑ましい集団だなあとの印象をもちました。

この旅行を通して、大きく成長した3年生の姿が見えました。バスや電車内で実際にお年寄りに席を譲ったこと。思ってもなかなか実行に移せないことですが、それをこの京都で実行したことを讃えます。また、先生の話をもっと真剣に聞き自分の足りなかった点は直していこうとする姿勢、時間を守ろうと努力する姿勢、実行委員や班長への感謝の気持ち等、とにかく自分だけ楽しめばそれでいいという風潮がある中、みんなで楽しみを分かち合おうとする深良中3年生の姿に希望を感じた修学旅行でした。